

## 「小樽市総合戦略」(改訂案)に対して提出された意見等の概要及び市の考え方等

1	意見等の提出者数	3人
2	意見等の件数	11件
3	上記2のうち計画等の案を修正した件数	0件
4	意見等の概要及び市の考え方	

No.	意見等の概要	市の考え方等
1	<p><b>地域の特性に配慮した地区別戦略の考え方について</b> 各地域の特徴が追加されているが、地域にあるモノについての考察だけではなく、そこに住むヒトの年齢や性格などソフト面の考察も必要ではないか。そのうえで、モノ・ヒトの現状を踏まえた課題達成の困難度を明らかにし、どの地域を優先的に進めるか等の方向性を示しても良いのではないかな。</p>	<p>今回の改訂にあたっては、各地域における踏み込んだ議論の第1歩として、各地域の公共施設など「モノ」に着目した考察をいたしました。ご指摘のようにソフト面も含めた考察の余地はあると認識しております。課題の困難度や優先順位につきましては、現時点で明確に考え方をお示しできる段階にございませんが、多くの市民の皆様にご理解いただける戦略となるよう、今後も定期的に見直しをしてまいりたいと考えております。</p>
2	<p><b>地域の特性に配慮した地区別戦略の考え方について</b> 各地域が個別に扱われている感があり、地域間の関係性や連携、市の将来都市像と各地域の位置づけが判りにくいのではないかな。</p>	<p>今後さらに具体的に踏み込んだ議論をする中で、各地域の共通点や関係性を見出すことにより、それぞれの位置づけを明確にしていきたいと思います。</p>
3	<p><b>重点戦略①「育て上げるチカラ」の強化について</b> 子育てや学習について地域住民の共助を促す記載がないので、地域住民が関与できる余地を残した方がよいのではないかな。</p>	<p>子育てや教育に関する共助の仕組みについては、重点戦略①における「地域全体で子どもを育てる」という記載により、地域住民が関与できる余地を残していると考えております。また、主な施策「(3)地域の教育力の向上」の「i)コミュニティスクールの開設に関する検討」として、新たに具体例を追加したところです。</p>
4	<p><b>重点戦略①「育て上げるチカラ」の強化について</b> 最近の親は子どもの家庭教育で悩みを抱えていると聞くので、親の教育という視点の施策もあったほうが良いのではないかな。</p>	<p>平成27年度から文部科学省登録の家庭教育支援チーム「小樽わくわく共育ネットワーク」が、生涯学習プラザ「レピオ」を拠点に保護者への学びの場の提供及び地域の居場所づくりのため、年120回程度、家庭教育講座や親子参加型の体験型プログラムを実施しているほか、情報提供や相談対応などを行っているところです。</p>
5	<p><b>重点戦略②「住み続けるチカラ」の強化について</b> 移住促進のプロモーションを首都圏に限定する必要があるのではないかな。むしろ、小樽の気質に合いそうな地域を選定し、そこでプロモーションをする姿勢があっても良いのではないかな。</p>	<p>東京一極集中の是正により地方の人口流出を抑制するという構造的な問題と、人口規模の大きい首都圏でプロモーションを実施したほうが効果的・効率的であるという現実的な理由から、従来から首都圏で移住プロモーションを実施しているものです。実際に移住をされる方は、個々の事情や価値観のもと居住地を決定されますので、現時点で地域を選定したプロモーションは想定しておりません。</p>

No.	意見等の概要	市の考え方等
6	<b>重点戦略②「住み続けるチカラ」の強化について</b> よそ者を嫌う道民気質から、移住者とのトラブルも耳にするが、移住者と市民が調和する施策も必要なのではないか。	重点戦略②「(1) 移住促進」の「ii) 移住者コミュニティの形成と交流施設の整備」として、新たに具体例を追加したところです。
7	<b>重点戦略②「住み続けるチカラ」の強化について</b> 移住者の働く場所、収入源の確保・創造についての検討がないのではないかと。	「2 地域の特性に配慮した地区別戦略の考え方」の「(2)中部地区」の発展方向において検討した結果、「市内中心部という利便性の高さを活かし、まちなかでの雇用機会を創出するとともに、移住者に対する働く場の情報提供、地域や世代を超えて交流する場の創出に努めます。」として、新たに施策の体系を追加したところです。
8	<b>地域の特性に配慮した地区別戦略の考え方について</b> 改定案にあるリノベーションシティの推進に加え、「稼ぐ公民連携」であるPPP手法を導入したり、エリアマネジメント戦略を追加してはどうか。空き家・空き店舗・歴史的建造物のリノベーション、公共施設の更新や公共資産の活用、民間投資による経済開発を複合的に進めることでエリアの魅力を高め、産業振興・雇用増・税収増、公的サービスの充実・満足度の向上・人口増を同時に実現して欲しい。	リノベーションシティの推進につきましては、中部地区の発展方向の施策の一つとして整理していることから、エリアマネジメントに近い考え方として、今回お示しできたと考えております。 地方創生の推進にあたっては、国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、「公民連携」に類似した官民協働の推進、横断的に課題解決を図る政策間連携の推進のほか、広域連携の推進などについて明記されていることから、これを念頭に総合戦略を推進してまいります。
9	<b>その他</b> 高齢者など弱者の視点を忘れず、住みやすい住宅づくりの小樽モデル化を進めるよう期待します。	今後の施策・事業の参考にさせていただきたいと存じます。
10	<b>その他</b> 小樽市は歴史・文化のある後志地域の中心として、4つのプロジェクトでまちづくりを進めようとしているので、住民サービスのための拠点をつくり、近隣市町村との連携をリードすることを期待します。	「まちづくりの考え方」や「基本目標」に掲げておりますとおり、本市は「北しりべし定住自立圏」の中心市として、近隣5町村(積丹町・古平町・仁木町・余市町・赤井川村)とともに圏域における生活機能の確保や経済基盤の整備促進を図る取組なども平行して進めているところです。 今後もこうした取組を通じ、より実効性のある市町村連携が図られるよう努めてまいります。
11	<b>その他</b> 市内バス事業者等との連携・協力体制を構築し、交通アクセスの合理化(ジョイントバスやフリー乗車など)を進めてもらいたい。	今後の施策・事業の参考にさせていただきたいと存じます。
12		

\* 同じ内容の意見が複数ある場合は、「意見等の概要」の最後に件数を記載してください。

\* 計画等の案を修正した場合は、「市の考え方等」の欄に修正箇所を併せて記載してください。